

子ども・子育て支援の制度が新しくなります

幼稚園・保育所・子育て支援など、国の子育てに関する制度が「子ども・子育て支援新制度」として、平成27年度から変わります。ここで、その概要をお知らせします。

子ども・子育て支援新制度とは

子育てをめぐるさまざまな課題の解決のため、国が昨年8月に公布した「子ども・子育て関連3法」に基づく新しい制度。住民に最も身近な市町村が地域のニーズを把握し、計画的に認定こども園・幼稚園・保育所などの整備、子育て支援を行っていくものです。

新制度のポイント

- ① 質の高い幼児期学校教育・保育の総合的な提供
 - ② 保育の量的拡大・確保
 - ③ 地域の子ども・子育て支援の充実
- これらの課題解決のために、次のことを推進していくとしています。

① 幼稚園と保育所の機能を併せ持つ「認定こども園制度」の改善

② 幼稚園、保育所、認定こども園に共通の安定的な財政支援を行い、併せて3歳児未満の児童の利用を対象とした小規模保育などの「地域型保育」への支援創設



③ 親子が交流できる拠点の充実や、一時預かりを増やすなど、地域のニーズに応じた多様な子育て支援を推進



奥州市の取り組み

市では、これまでも「子育て環境ナンバワンプラン」のまちを目指し、さまざまな子育て支援に取り組んできました。

新しい制度のもと、子ども・子育て支援をより一層進めていくため、市においても市民の皆さんを対象に幼児期

の教育・保育や、子育て支援のニーズ調査を行うなど、新制度に対応した「子ども・子育て支援事業計画」作りの準備に入りました。

子ども・子育て会議

新制度による事業計画の策定や、子ども・子育て支援に関する施策の推進に当たり、子育てをしている人や子育て支援をしている人の意見を反映するため、25年7月に、公募委員を含む委員20人による「子ども・子育て会議」を設置しました。

これまで、同年8月と9月に会議を行い、制度の概要や市の現状を説明し、ニーズ調査の内容について意見をいただきました。

ニーズ調査を実施

子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて「現在の利用状況」「今後の利用希望」などの把握のため、同年10月から11月にかけて、0歳から小

学3年生までの幼児・児童を持つ保護者2780人を対象にアンケートを実施。2424人から回答がありました。

今後、このアンケートで寄せられた意見を事業計画に生かしていきます。

これからの予定

26年前半に、ニーズ調査の結果や現状を踏まえ、事業計画策定に向けた具体的な検討に入ります。年度半ばをめどに計画策定、保育・教育施設の確認などの準備を行う予定です。

具体的な制度の変更内容は、今後、広報おうしゅう紙面や市ホームページなどでお知らせしていきます。



■問い合わせ 市教育委員会事務局学校教育課子ども・子育て支援推進室（江刺総合支所・内線421）

※子ども・子育て関連3法＝①子ども・子育て支援法、②認定こども園法の一部改正、③関係法律の整備法のこと

心が豊かになるお手伝いを

紙しばいと絵本のよみきかせ会

～水沢民話の会

あしたば～



“つながれ広がれNPOの輪”の後継企画のこのコーナーでは、特定非営利活動法人や市民団体の活動を紹介していきます。

水

沢民話の会あしたば（千葉やす子代表）による「紙しばいと絵本のよみきかせ会」が12月14日、市立水沢図書館で行われました。外では雪がちらつくこの日、生後4カ月から小学1年生までの幼児・児童とその保護者13人が参加。オリジナルのものを含めた紙芝居の上演と、大型絵本などの読み聞かせに、参加者は親子で楽しいひとときを過ごしました。

水沢図書館で同会の読み聞かせが始まったのは、同館が現在地に移転した平成元年。おはなし室ができたことで同館から依頼があったことや、子どもたちの気持ちが豊かになるお手伝いをしたいという同会の思いから始まりました。おおむね月に1回のペースで、多くの子どもたちに絵本の楽しさなどを伝えてきました。

約1時間で、絵本を大小合わせて10冊、紙芝居を同じく10本程度上演しています。

集まった子どもの年齢などに合わせて読み物や紙芝居の作品を選んでいく同会。赤ちゃん用、子ども用、そしてお父さんお母さん用の絵本

もあります。また、その場の雰囲気でもやり方も変えているとか――。「集まってくれる子どもたちは、年齢に幅があるので、常に興味を引くような工夫もしています。收拾がつかなくなつては、読み聞かせになりませんから」と千葉代表（81）は話します。「万が一のための小道具もあるんですよ」とにつこり。

子ども2人と一緒に参加した高橋由絵さん（29）は「子どもが小さいうちの読み聞かせは大事だと思う。自分ではなかなか読んであげられないですが――。ここでの読み聞かせには初めて参加しましたが、また来たいです」と話し、蒼月ちゃん（3）、陽輝ちゃん（4カ月）と共に、絵本の世界に引き込まれていました。

団体紹介

同会発足のきっかけは、昭和50年代はじめ、市が開催したボランティア講座（読み聞かせなど）に、第2期生として千葉代表が参加したこと。もともと本が好きだった千葉代表は、同講座の受講生などと共に、民話や紙芝居を創る



①お話に引き込まれる参加者 ②紙芝居を上演する会員の吉田トク子さん ③紙芝居にはやはり拍子木が付きもの ④大型絵本を使つての読み聞かせ ⑤会場はこの看板が目印です

